

azbil

人を中心としたオートメーション

アズビル株式会社 証券コード: 6845(東証1部)

2013年度 中間決算説明会

＜アジェンダ＞

1. 上期 連結業績
2. 通期 連結業績計画
3. 株主の皆様への利益還元
4. 新中期経営計画の進捗

日時：2013年11月1日 16:00 17:00

場所：日本工業倶楽部

- 1) 金額は表示単位未満切り捨てで記載しております。
- 2) 次の通りセグメント名称を略称で記載しております。
 B A: ビルディングオートメーション
 A A: アドバンスオートメーション
 L A: ライフオートメーション
- 3) 各セグメント別の金額には、セグメント間の内部取引が含まれております。
- 4) 2012年度より、従来「その他」に含めていた事業の一部(検査・測定機器の輸入・仕入販売)を、「AA事業」へ区分変更致しました。2011年度の数値につきましては、変更後のセグメント区分に組替えて記載しております。
- 5) azbilグループの売上は下期に集中する傾向がある一方、固定費は恒常的に発生するため、例年、上期の利益は、下期に比べて低くなります。
- 6) 業績計画は、本資料発表日において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因により計画値と異なる場合があります。
- 7) 新規連結会社の状況は次の通りとなっております。

新規連結会社	2012年度				2013年度	連結の理由
	第1 四半期	第2 四半期	第3 四半期	第4 四半期	第1 四半期	
① 北京銀泰永輝智能科技有限公司	●	●	■			株式取得
② アズビルTACO株式会社			●	■		株式取得
③ アズビルテルスター有限会社				●	■	株式取得
④ アズビルボルテック有限会社				●	■	株式取得
⑤ アズビルブラジル有限会社					■	重要性増大

●: B/S連結(同時に新規連結時の受注残高を受注高に計上)

1. 上期 連結業績

1. 上期 連結業績 経営成績



- **受注高** [対前年同期] LA事業がアズビルテルスターの新規連結により大きく伸長した他、BA事業、AA事業も伸長。
- **売上高** [対前年同期] LA事業が新規連結により増収。BA事業・AA事業は、海外で増収となったが、国内が減収となりほぼ前年並み。全体として増収。海外売上高は、新規連結も加えて大きく伸長。
[対計画] AA事業が未達となったが、BA事業とLA事業は計画を上回り、全体として若干上振れ。
- **利益** [対前年同期] 体質強化による原価改善、経費抑制を進めたが、のれん償却費用を含む新規連結による影響及び退職給付費用の一時的な増加※等により、営業利益は減少。為替差益の計上等により当期純利益の減少幅は縮小。
[対計画] BA事業が計画を上回るが、AA事業とLA事業が未達となり、営業利益は若干の未達。当期純利益は計画を達成。

[単位: 億円]

	当期	計画 (2013/5/10)	対計画		前年同期	対前年同期	
			増減	増減%		増減	増減%
受注高	1,376				1,267	+108	+8.6
売上高	1,112	1,100	+12	+1.2	1,047	+65	+6.2
売上総利益	374				350	+23	+6.6
%	33.6				33.5	+0.1P	
販売費及び一般管理費	349				315	+34	+10.8
営業利益	24	27	△2	△9.0	35	△10	△30.7
%	2.2	2.5	△0.2P		3.4	△1.2P	
経常利益	27	24	+3	+15.1	33	△5	△16.5
税金等調整前当期純利益	26				31	△5	△17.2
当期純利益	10	9	+1	+13.4	14	△4	△31.5
%	0.9	0.8	+0.1P		1.4	△0.5P	

※ 当年度において退職給付費用の一時的な増加等が発生(上期においては約6億円)。国債金利の低下及び社員構成の変動に対応するもの。

1. 上期 連結業績 セグメント別業績



- B A [対前年同期] 海外市場で増収となるが、国内市場が、主に大型再開発案件の切れ間にある新設分野で減少し、全体として前年度並み。省エネ提案を伴う既設建物、サービス分野は安定的に推移。施工管理の強化等により収益性が改善し、退職給付費用の一時的増加を補うが、新規連結の影響等から減益。
[対計画] 国内外で計画を超え、売上・利益ともに計画を上回る。
- A A [対前年同期] 国内外装置メーカー向け制御機器は回復傾向にあり、新製品とソリューションでの事業展開が進んだが、前年度下期からの工場・プラント設備投資の低迷継続により国内が減収。海外での増収により売上高は前年度並み。国内での減収及び退職給付費用の一時的な増加等から減益。
[対計画] 国内の需要が低調に推移したことから、売上・利益ともに計画を下回る。
- L A [対前年同期] 新規連結により受注・売上は大幅に増加。ガス・水道メータの分野において収益性が改善したが、LA事業全体では事業拡大のための体制整備費用やのれん償却費用を含む新規連結による影響により減益。
[対計画] アズビルテルスターで売上は全体として計画を上回ったが、体制整備費用の発生等により利益は未達。

[単位：億円]

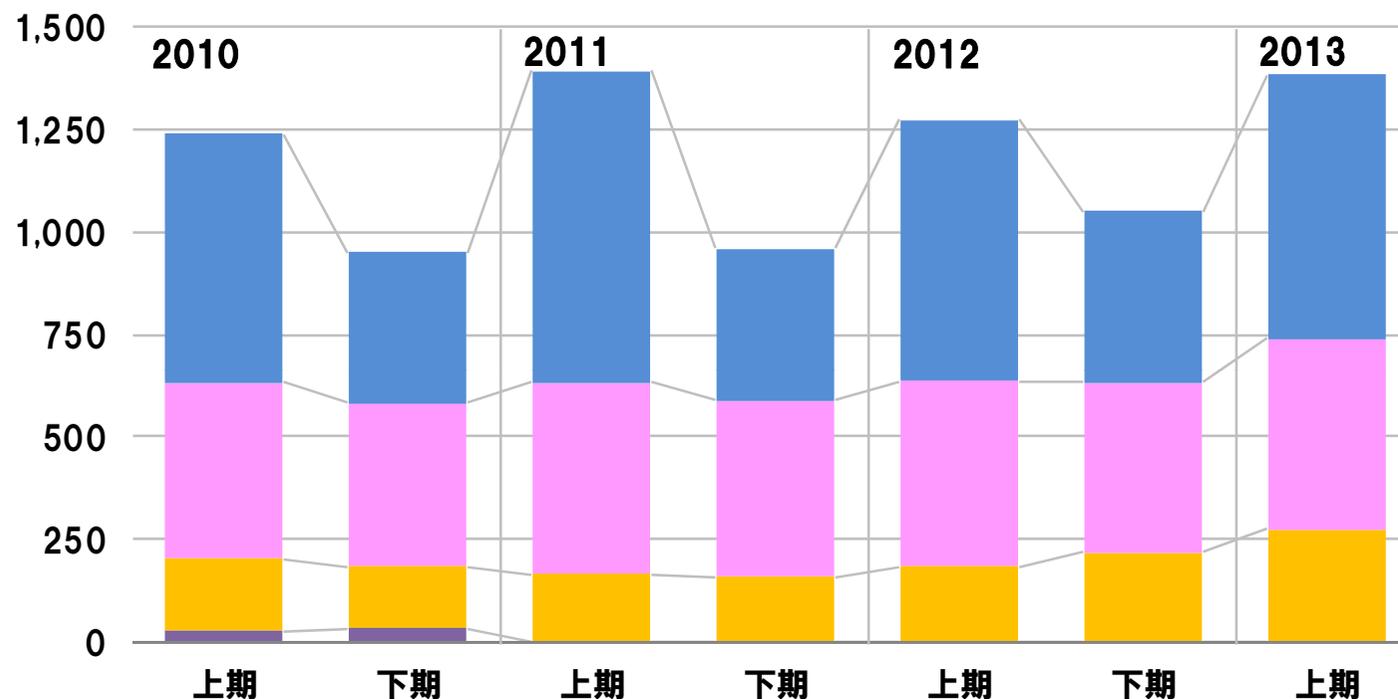
	当期	計画 (2013/5/10)	対計画		前年同期	対前年同期		
			増減	増減%		増減	増減%	
■ B A事業	受注高	644			639	+5	+0.8	
	売上高	450	440	+10	+2.5	453	△2	△0.5
	セグメント利益	15	13	+2	+15.7	17	△2	△13.4
	%	3.3	3.0	+0.4P		3.8	△0.5P	
■ A A事業	受注高	465			452	+12	+2.9	
	売上高	424	440	△15	△3.5	426	△1	△0.4
	セグメント利益	12	15	△2	△16.7	19	△6	△35.7
	%	2.9	3.4	△0.5P		4.6	△1.6P	
■ L A事業	受注高	276			183	+92	+50.7	
	売上高	242	230	+12	+5.4	175	+67	+38.4
	セグメント利益	△3	△1	△2	-	△1	△1	-
	%	△1.3	△0.4	△0.8P		△0.8	△0.4P	
連結	受注高	1,376			1,267	+108	+8.6	
	売上高	1,112	1,100	+12	+1.2	1,047	+65	+6.2
	営業利益	24	27	△2	△9.0	35	△10	△30.7
	%	2.2	2.5	△0.2P		3.4	△1.2P	

1. 上期 連結業績



[参考] セグメント別受注高 推移

[単位: 億円]



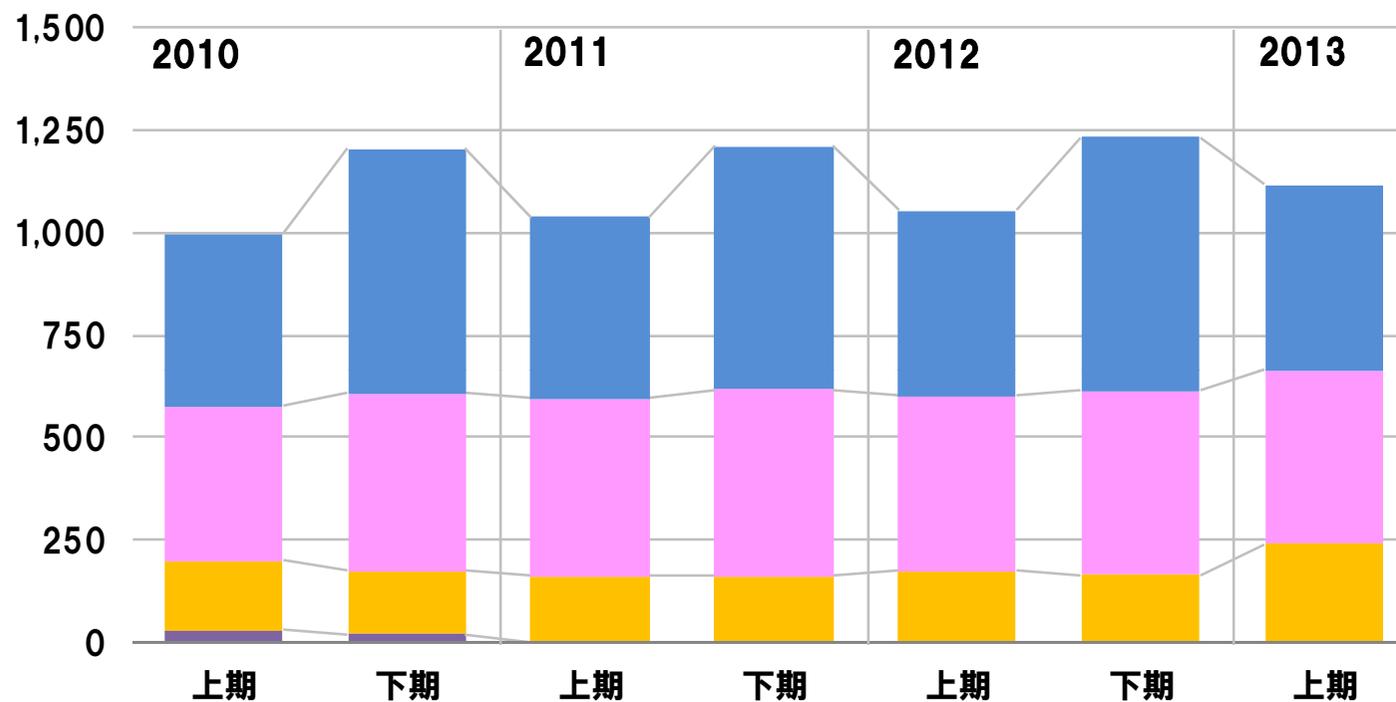
年度	2010		2011		2012		2013
	上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期
■ BA事業	606	366	761	372	639	418	644
■ AA事業	430	399	468	430	452	414	465
■ LA事業	175	152	165	158	183	218	276
■ その他	28	33	0	0	0	0	0
連結	1,232	941	1,385	953	1,267	1,043	1,376

1. 上期 連結業績



[参考] セグメント別売上高 推移

[単位: 億円]



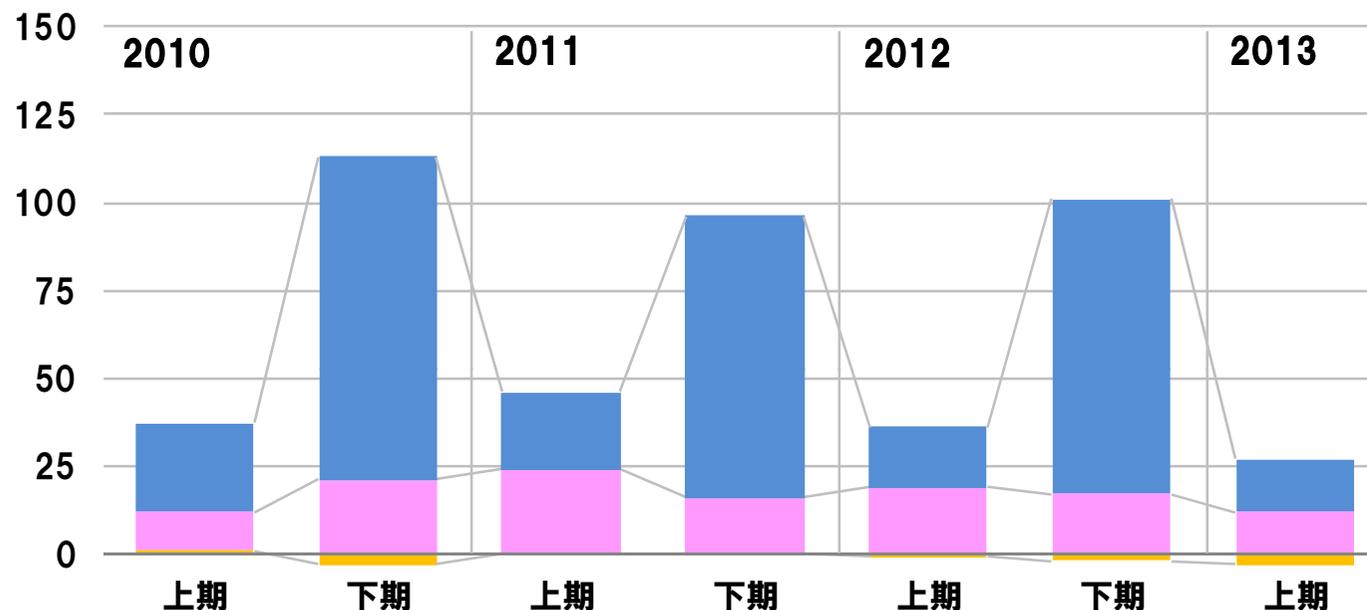
年度	2010 上期	2010 下期	2011 上期	2011 下期	2012 上期	2012 下期	2013 上期
■ BA事業	421	599	443	595	453	620	450
■ AA事業	378	431	433	454	426	450	424
■ LA事業	171	155	162	163	175	164	242
■ その他	29	21	0	0	0	0	0
連結	993	1,198	1,032	1,202	1,047	1,228	1,112

1. 上期 連結業績



[参考] セグメント利益(営業利益) 推移

[単位: 億円]



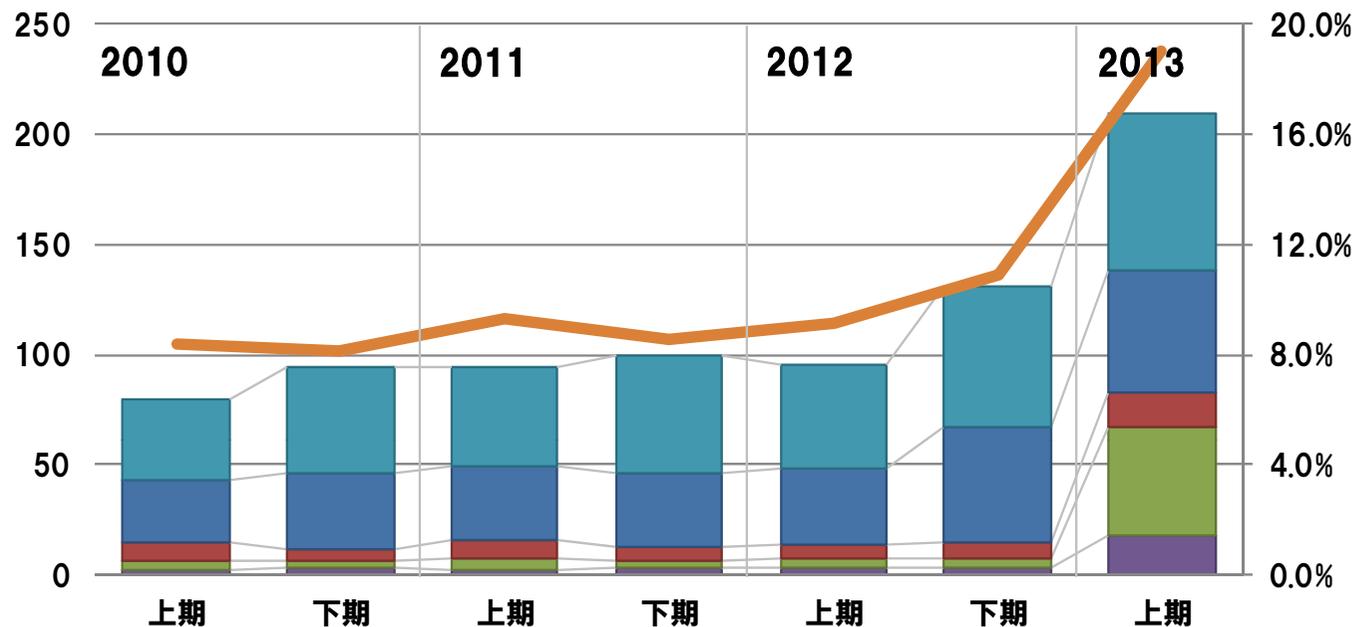
年度	2010		2011		2012		2013
	上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期
■ BA事業	25	92	22	80	17	84	15
■ AA事業	11	21	24	16	19	17	12
■ LA事業	1	△3	△0	△0	△1	△2	△3
■ その他	0	0	0	△0	0	△0	0
連結	37	111	47	96	35	98	24

1. 上期 連結業績 海外エリア別売上高



[単位：億円]

- 事業の堅調な推移に加え、新規連結及び為替の影響もあり売上高は大きく伸長
- 中国、アジア地域において、ランドマーク案件の獲得も含めてBA事業が拡大。
- AA事業では、品揃えとソリューション展開で北米が好調。
- LA事業のアズビルテルスターの新規連結により欧州、その他（中南米）地域が大きく伸長。



年度	2010 上期	2010 下期	2011 上期	2011 下期	2012 上期	2012 下期	2013 上期
アジア	37	48	45	54	47	64	71
中国	28	34	33	33	34	52	55
北米	9	6	9	7	7	8	16
欧州	4	3	5	3	4	4	49
その他	2	3	2	3	3	3	18
連結	83	97	95	102	95	133	211

(ご参考)

海外売上高%	8.4%	8.1%	9.3%	8.5%	9.2%	10.9%	19.0%
期中平均レート(USD)	91.36	87.79	82.02	79.79	79.78	79.81	95.73
期中平均レート(EUR)	121.24	116.28	115.05	111.11	103.49	102.56	125.63

※ 海外売上高は、現地法人と直接輸出の売上のみを集計しており、間接輸出は含んでおりません。

※ 現地法人の事業年度は主に12月31日を期末日とする年度を採用しております。

1. 上期 連結業績 財政状態

azbilグループの資産・負債は事業の季節性により、第2四半期末は前年度末と比べ減少する傾向にあります。

- 資産 主に売上債権が大きく減少し、前年度末比133億円の減少。
- 負債 主に仕入債務の減少および法人税等の支払の増加により、前年度末比138億円の減少。
- 純資産 配当金支払による利益剰余金の減少の一方、その他有価証券評価差額金および為替換算調整勘定の増加により、前年度末比4億円の増加。

[単位：億円]

	当期末 (A)	前年度末 (B)	対前年度末 増減 (A) - (B)		当期末 (A)	前年度末 (B)	対前年度末 増減 (A) - (B)
流動資産	1,674	1,817	△ 142	負債	883	1,022	△ 138
現金及び預金	526	484	+42	流動負債	692	828	△ 135
受取手形及び売掛金	721	888	△ 167	仕入債務	332	405	△ 72
棚卸資産	184	165	+19	短期借入金・社債	147	133	+13
その他	242	279	△ 37	その他	212	288	△ 76
固定資産	626	617	+9	固定負債	191	193	△ 2
有形固定資産	244	246	△ 2	長期借入金・社債	35	45	△ 9
無形固定資産	128	126	+2	その他	155	148	+6
投資その他の資産	253	244	+9	純資産	1,416	1,411	+4
				株主資本	1,350	1,362	△ 11
				資本金	105	105	-
				資本剰余金	171	171	-
				利益剰余金	1,099	1,111	△ 11
				自己株式	△ 26	△ 26	△ 0
				その他の包括利益累計額	50	28	+22
				新株予約権・少数株主持分	16	21	△ 5
資産合計	2,300	2,434	△ 133	負債純資産合計	2,300	2,434	△ 133

(ご参考) 自己資本比率: 当期末 60.9%、前年度末 57.1%

1. 上期 連結業績 キャッシュフローの状況

- 四半期純利益の減少、法人税等の支払の増加などにより、フリーキャッシュフローは前年同期比8億円の微減。
- 新規連結会社における借入金の増加を主因に、財務活動によるキャッシュフローは前年同期比3億円の微増。

[単位：億円]

	当 期	前年同期	対前年同期	
			増減	増減%
営業活動によるキャッシュ・フロー	58	73	△15	△21.3
投資活動によるキャッシュ・フロー	△13	△19	+6	-
フリー・キャッシュ・フロー (FCF)	45	53	△8	△16.2
財務活動によるキャッシュ・フロー	△31	△34	+3	-
現金及び現金同等物に係る換算差額	9	0	+9	-
現金及び現金同等物の増減額	22	19	+3	+17.6
現金及び現金同等物の期首残高	560	553	+6	+1.3
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加	0	0	△0	△27.8
現金及び現金同等物の期末残高	583	573	+10	+1.8

(ご参考)

設備投資	23	14	+9	+65.1
減価償却費	17	17	+0	+3.5

2. 通期 連結業績計画

2. 通期 連結業績計画 修正計画

売上高2,500億円(期初計画通り)、営業利益137億円(期初計画比△5億円、△3.5%)と計画を見直す。

- 売上については、上期の国内設備投資低迷の影響があるものの、新規連結を含む海外の拡大により、期初の売上計画通りとする。
- 営業利益は、主にAA事業の上期業績結果とLA事業における事業体質改善のための費用等を反映し計画を修正。

[単位：億円]

	修正計画	期初計画	対期初計画		前年度	対前年度	
			増減	増減%		増減	増減%
売上高	2,500	2,500	-	-	2,275	+224	+9.8
営業利益	137	142	△5	△3.5	134	+2	+2.2
%	5.5	5.7	△0.2P		5.9	△0.4P	
経常利益	132	135	△3	△2.2	145	△13	△9.4
当期純利益	78	80	△2	△2.5	83	△5	△6.1
%	3.1	3.2	△0.1P		3.7	△0.5P	

2. 通期 連結業績計画 セグメント別計画

- B A 期初計画通り前年度比増収・増益を見込む。利益は期初計画に1億円を増額。電気料金値上げ等による省エネ需要を捉えた既設建物・サービス分野及び海外のローカル建物市場での伸長を計画。
- A A プラント向け制御システム・サービスの売上は、季節要因があり上期に比べて下期は増収の見通し。また、装置メーカー向け制御機器の売上は、足元の市場回復と上期からの施策展開の成果を見込む。全体として下期はほぼ期初計画を維持。上期業績結果を反映して、通期計画を修正。
- L A アズビルテルスター※の新規連結により前年度比で大幅に増収。上期・下期にわたる同社の事業体質改善のための費用に加えて、LA事業他分野における事業拡大に向けた先行投資の影響等により利益を修正。

[単位: 億円]

	修正計画	期初計画	対期初計画		前年度	対前年度	
			増減	増減%		増減	増減%
■ B A事業 売上高	1,110	1,110	-	-	1,074	+35	+3.3
セグメント利益	104	103	+1	+1.0	101	+2	+2.4
%	9.4	9.3	+0.1P		9.5	Δ0.1P	
■ A A事業 売上高	910	930	Δ20	Δ2.2	876	+33	+3.8
セグメント利益	36	38	Δ2	Δ5.3	36	Δ0	Δ1.3
%	4.0	4.1	Δ0.1P		4.2	Δ0.2P	
■ L A事業 売上高	500	480	+20	+4.2	339	+160	+47.1
セグメント利益	Δ3	1	Δ4	-	Δ3	+0	-
%	Δ0.6	0.2	Δ0.8P		Δ1.2	+0.6P	
連結 売上高	2,500	2,500	-	-	2,275	+224	+9.8
営業利益	137	142	Δ5	Δ3.5	134	+2	+2.2
%	5.5	5.7	Δ0.2P		5.9	Δ0.4P	

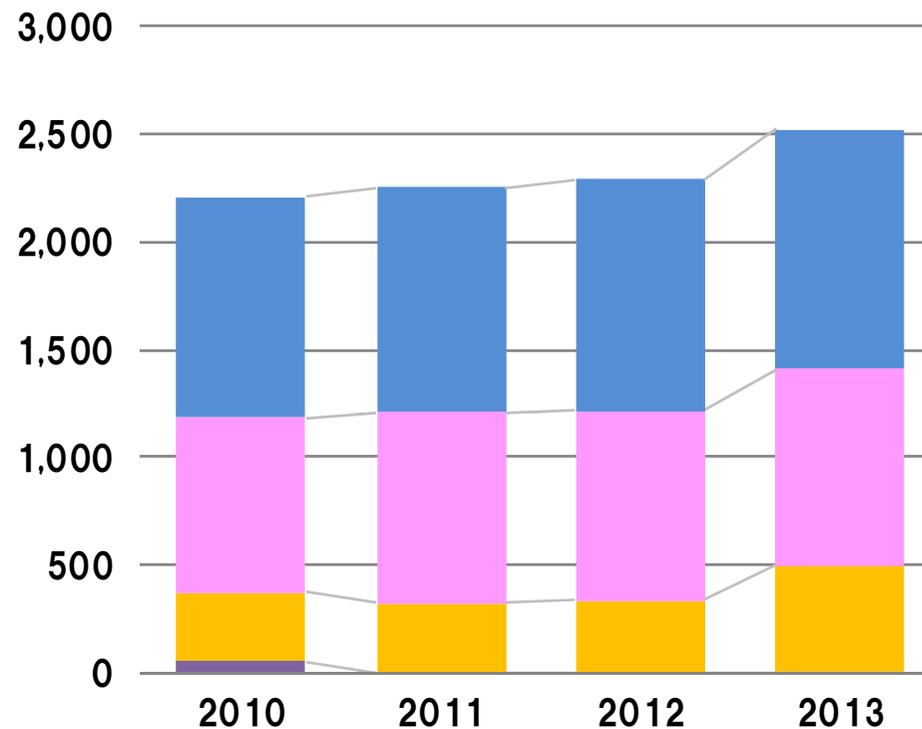
※ 新規連結したアズビルテルスター有限会社の売上は下期に集中する傾向があり、損益面についても下期利益は上期に比べて高くなる傾向にあります。

2. 通期 連結業績計画



[参考] セグメント別売上高 推移

[単位: 億円]



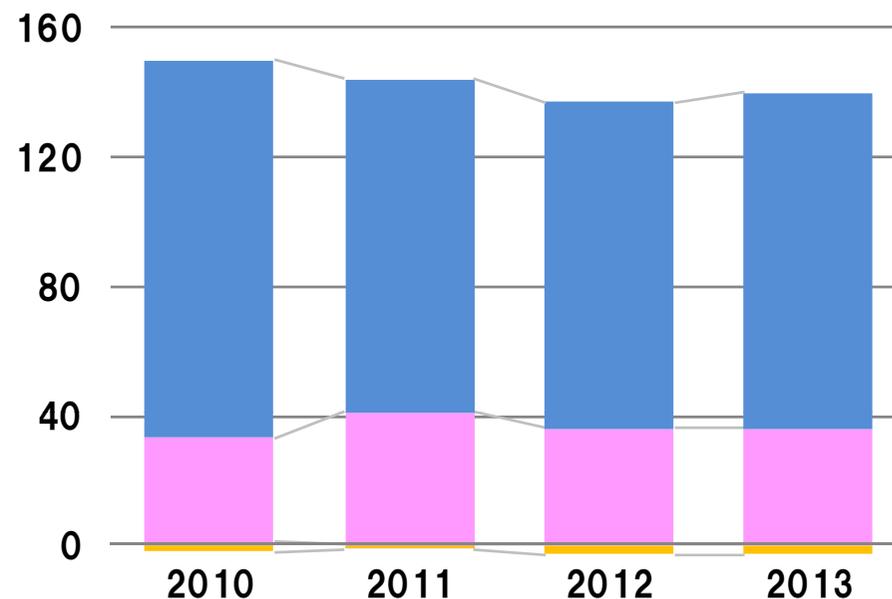
年度	2010	2011	2012	2013 (計画)
■ BA事業	1,021	1,038	1,074	1,110
■ AA事業	809	888	876	910
■ LA事業	326	325	339	500
■ その他	51	0	0	1
連結	2,192	2,234	2,275	2,500

2. 通期 連結業績計画



[参考] セグメント利益(営業利益) 推移

[単位: 億円]



年度	2010	2011	2012	2013 (計画)
■ BA事業	117	103	101	104
■ AA事業	32	41	36	36
■ LA事業	△ 2	△ 1	△ 3	△ 3
■ その他	1	△ 0	0	0
連結	148	143	134	137

3. 株主の皆様への利益還元

3. 株主の皆様への利益還元 配当金

- 株主の皆様への利益還元を重視し、連結業績、自己資本当期純利益率・純資産配当率の水準向上に努めつつ、安定した配当を維持する。
- 基本方針と施策の進捗状況に鑑み、5月10日公表通り、1株当たり31.5円中間配当を行う。また、同じく公表通り、1株当たり31.5円の期末配当により、年間で1株あたり63円の配当を計画する。

	2012年度		2013年度	
	中間	期末	中間	期末
1株当たり配当金 [円]	31.5	31.5	31.5	31.5(計画)
配当性向	56.0%		59.7%	
純資産配当率 (DOE)	3.4%		3.3%	

(ご参考) 当期末(2013年9月30日)時点配当利回り 2.8%

4. 新中期経営計画の進捗

4. 新中期経営計画の進捗 新中期計画及び長期目標

- 中期経営計画(2013～2016年度)、長期目標(2021年度)を設定。
- 3つの基本方針に基づき施策展開。事業構造、業務構造の変革が着実に進む。
- 事業環境の変化が加速する中、2016年度業績目標達成に向けての取り組みを一層強化していく。

社名変更 ▼

創業110周年 ▼

創業115周年 ▼

中期経営計画 (2013～2016年度)

【基本方針】

2012

2013

2014

2015

2016

...

2021

顧客・社会の
長期パートナー

- ・商品力・品揃えとエンジ・サービス体制の強化
- ・エネルギーマネジメントソリューション(ENEOPT)
- ・生産及び執務居住空間での次世代ソリューション開発

グローバル展開

- ・地域の拡大(インド、ブラジル、サウジアラビア)
- ・カスタマイズ開発体制の強化(北米・欧州・中国)
- ・グローバルでパートナー企業を獲得

学習する
企業体

- ・生産再編と人材リソース改革
- ・業務構造改革(販社統合・海外生産子会社)
- ・アズビル・アカデミー設立

中期経営計画 長期目標

売上高
2,800億円

営業利益
220億円

売上高
3,000億円規模

営業利益
300億円以上

ROE
10%以上

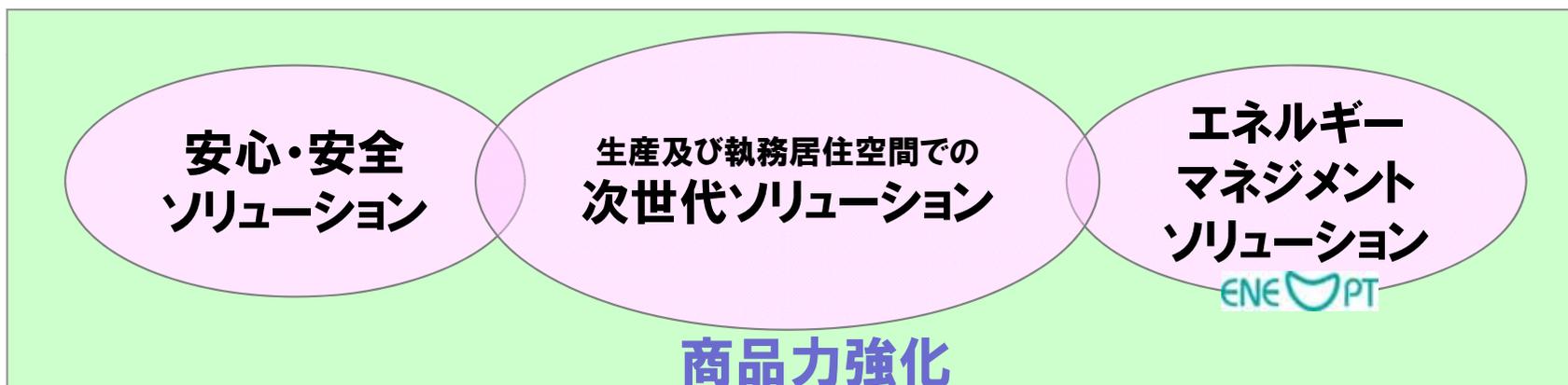
中期経営計画（2013～2016年度）概括

2016年度 売上高 2,800億円、営業利益 220億円

3つの
基本方針

- 技術・製品を基盤にソリューション展開で「顧客・社会の長期パートナー」へ
- 地域の拡大と質的な転換で「グローバル展開」
- 体質強化を継続的に実施できる「学習する企業体」を目指す

3つの
成長事業
領域



3つの
企業体質
強化

- グローバル生産・開発の構造改革
- エンジニアリング、サービス事業の構造改革
- 人材リソース改革

事業活動
の基盤

CSR経営、健全な財務基盤とコーポレートガバナンスの確立
グループ理念「人を中心としたオートメーション」

4. 新中期経営計画の進捗

企業体質の強化の進展

～ 海外生産シフトと成長領域への人材最適配置

- グローバル生産・開発の構造改革
- エンジニアリング、サービス事業の構造改革
- 人材リソース改革

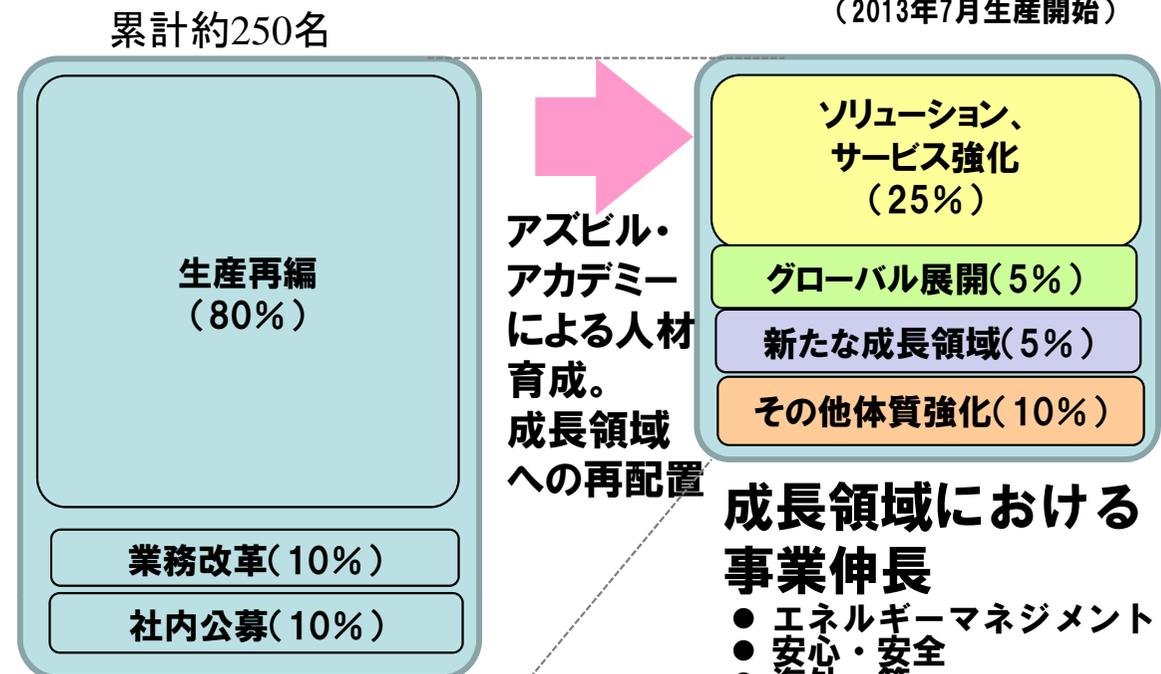
進 捗

- グローバルで最適な生産体制の構築・コスト低減に向けて海外生産シフト(中国、タイ)を加速。一部国内工場を閉鎖。
- 生産のみならず、グループ全体で、成長領域に合わせた人材の最適配置を展開。
(2012～2013年度上期累計 約250名)
- 職種転換等に伴う能力開発や資格獲得のためのアズビル・アカデミー稼動、グローバルに展開中。



アズビルプロダクション
タイランド株式会社
(2013年7月生産開始)

2012年度
アズビル・アカデミー講座受講者
累計12,000名



比率(%)は人数構成比率
定年、定時社員の契約満了等により約半数が減少

4. 新中期経営計画の進捗

BA(ビルディングオートメーション)事業施策

- 顧客の重要施設に関わる領域(設備を含めた省エネ改修等)の事業を拡大
- パートナー獲得/省エネ事業モデルによる海外市場展開
- 高付加価値サービスメニューの拡充とプロセス改善で国内事業での利益を確保

2013年度計画
 → 2016年度目標
 売上高: 1,110 億円
 → 1,200 億円
 セグメント利益: 104億円
 → 125億円

進 捗

- **海外のランドマーク案件獲得が進展。現地でのプレゼンス拡大。**
 - ベトナム国際空港、シンガポール工科・デザイン大学、タイ商業施設(2国間クレジットを活用したESCO)等の実績。
 - エンジニアの質・量の拡充によるプロジェクト遂行体制の整備とazbilブランド認知度向上による現地ビジネス・ネットワークの構築。
- **節電・省エネ提案による改修事業拡大に向けて体制を整備、受注堅調。**
 - エネルギー計測からデータに基づく対策施工、継続的な省エネ効果測定サービスを一貫して提供できる事業形態が特長。海外へ事業モデルの展開。
 - 省エネ提案・運用に必要な資格者を確保・育成。
 - エネルギー管理士 413名 第三種電気主任技術者 232名(2013年6月現在)
- **国内サービス事業基盤に加えて、海外でのサービスモデルも順次拡大。**
 - 国内サービス事業が安定的・継続的に成長。
 - 海外においてはランドマーク案件からのサービス契約獲得や導入実績を活かした遠隔監視サービス(インドネシア)が進展。グローバルサービス基盤(スキル、インフラネットワーク)の整備が進む。



4. 新中期経営計画の進捗

AA(アドバンスオートメーション)事業施策

- 成長領域へ人員をシフト・強化し、国内事業での利益を確保
- 品質・生産性向上、安全操業、エネルギーマネジメントをワンストップで提供
- グローバルに、バルブ事業領域の拡大と商品ポートフォリオの強化を実施

2013年度計画
 → 2016年度目標
 売上高: 910 億円
 → 1,050 億円
 セグメント利益: 36 億円
 → 80 億円

進 捗

- **アプリケーションを含めた装置メーカー向け新製品及び計装提案で新規事業領域を創出。**
 - 計装ネットワークモジュールNX: 液晶向け焼成炉、押し出し機等で新規採用、前年同期比で受注台数7割増。
 - 新光電センサHP7: 物流搬送機械向け半透明体検出ソリューション等で市場拡大。
- **製品ポートフォリオの強化による事業領域の拡大。**
 - アズビルボルテック(渦流量計)、アズビルTACO(空気圧技術・商品)の国内・アジア地域におけるazbilグループでの販売拡大。
 - 自動車、半導体やエネルギー管理市場をアズビル保有技術との組み合わせで深耕。
- **メンテナンスを含めたソリューション型のバルブ事業が海外で進展。**
 - 他社バルブメンテナンスも含めたソリューションを提供。バルブメンテナンスセンターをアジアに6か所整備。中東、米国に拡大中。
 - メンテナンス基盤強化に伴って、非日系グローバル企業からの受注も拡大(大型プラント向け汎用弁から厳しい耐腐食性をクリアする尿素プラント等の特殊弁まで)。



4. 新中期経営計画の進捗

LA (ライフオートメーション)事業施策

- エネルギー供給ライン(ガス・水道)でのソリューション事業展開
- 健康福祉・介護分野における総合サービス事業の展開
- 注文住宅向け全館空調市場の開拓
- ライフサイエンスエンジニアリング(LSE)分野での事業展開

2013年度計画
 → 2016年度目標
 売上高: 500 億円
 → 560 億円
 セグメント利益: △3 億円
 → 15 億円

進 捗

- **ガス・水道メータ分野の体質改善と事業領域の拡大。**
 - 水道メータの採算性の改善、民間市場の開拓に取り組み、収益性が改善。
 - レギュレータ、高圧ガバナ等、エネルギー供給ラインに沿ったソリューション事業拡大に向けて機構改革を実施。
- **住宅用全館空調システムの受注伸長、新製品投入。**
 - 積極的な営業施策が奏功して受注が前年同期比5割増。新製品の投入でさらなる拡大をめざす。
- **LSE分野の基盤強化が進展。**
 - LSE分野の中核となるアズビルテルスターの経営・利益体質の改善が進む。事業間のシナジー、技術・商品の共同開発もスタート。
 - 南米、アジア地域におけるジェネリック、ワクチン等、好調な製薬市場を捉えた事業拡大が進捗。

今後の展開

3つの基本方針の下、外部環境を踏まえ、一層の企業体質強化を進め、計画した事業施策を確実に進めることで、中期経営計画最終年度（2016年度）業績目標を確かなものにする。

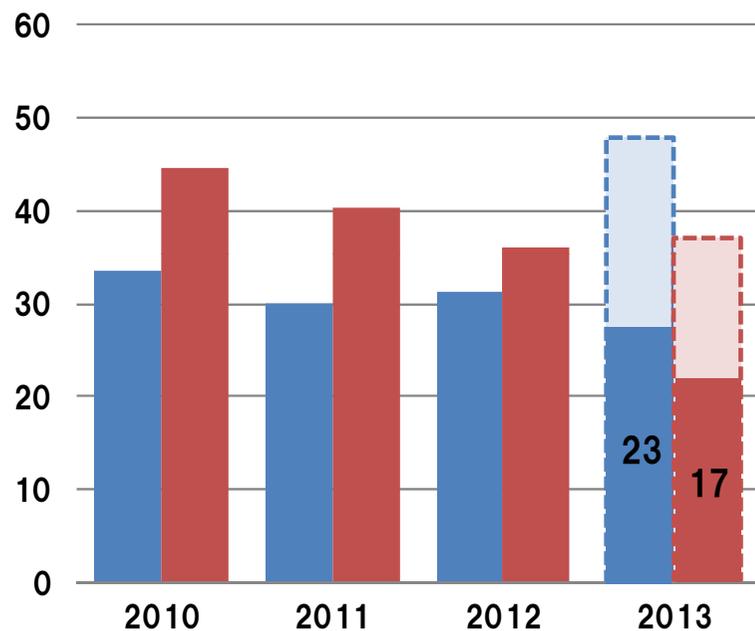
- **グローバルでの体質強化（国内、海外）。**
- **3つの成長事業領域での展開に不可欠な、「人を中心としたオートメーション」による次世代商品の開発・投入。**
- **グローバルで、顧客の長期パートナーとなるための“アズビルならではの”エンジニアリング、サービス及び開発体制の整備。**

補足資料

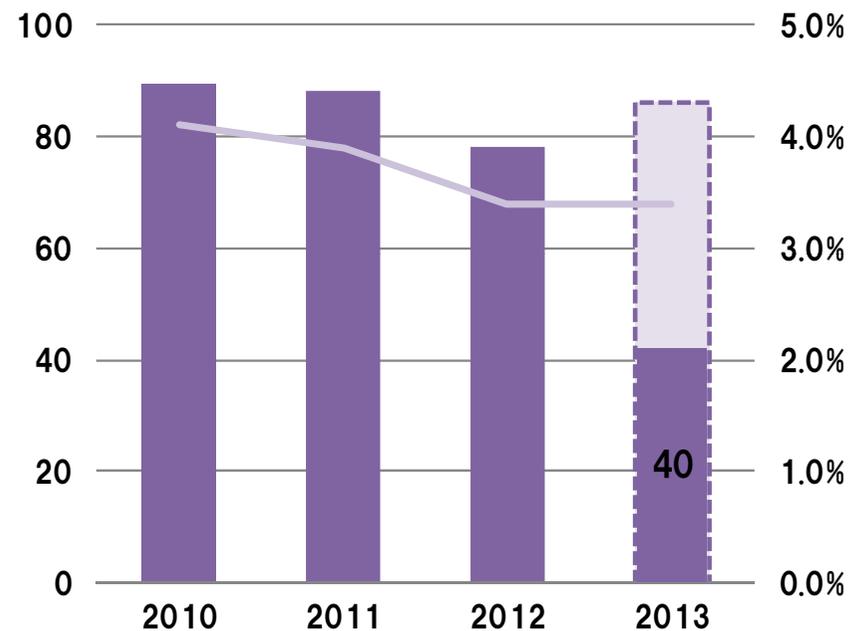
設備投資・減価償却費／研究開発費

[単位：億円]

■ 設備投資・減価償却費

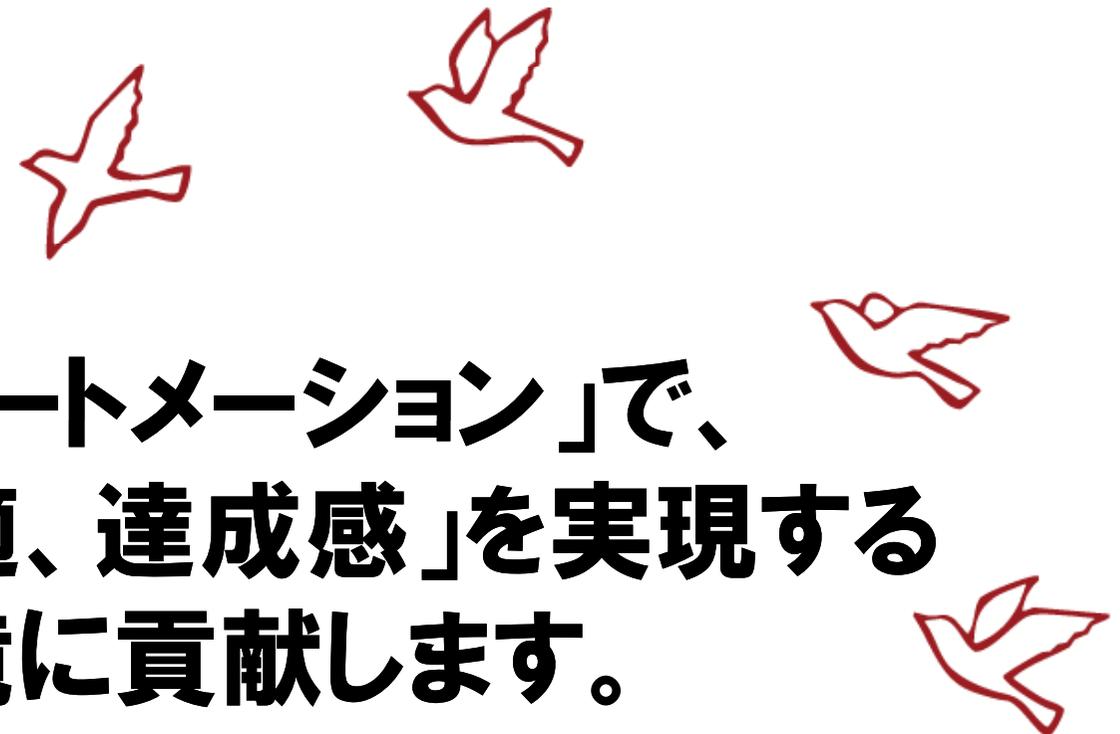


■ 研究開発費・研究開発費率



年度	2010	2011	2012	2013 (計画)
■ 設備投資	33	30	31	48
■ 減価償却費	44	40	36	37

	2010	2011	2012	2013 (計画)
■ 研究開発費	89	88	78	86
— 研究開発費率	4.1%	3.9%	3.4%	3.4%



**azbilグループは、
「人を中心としたオートメーション」で、
人々の「安心、快適、達成感」を実現する
とともに、地球環境に貢献します。**

<お問い合わせ>

アズビル株式会社
理財部 IRグループ

電話: 03-6810-1031
メール: azbil-ir@azbil.com
URL: <http://www.azbil.com/jp/ir/>